

(1) リンゴ斑点落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は平年より高いものの、発生程度は低い状況でした（図1）。

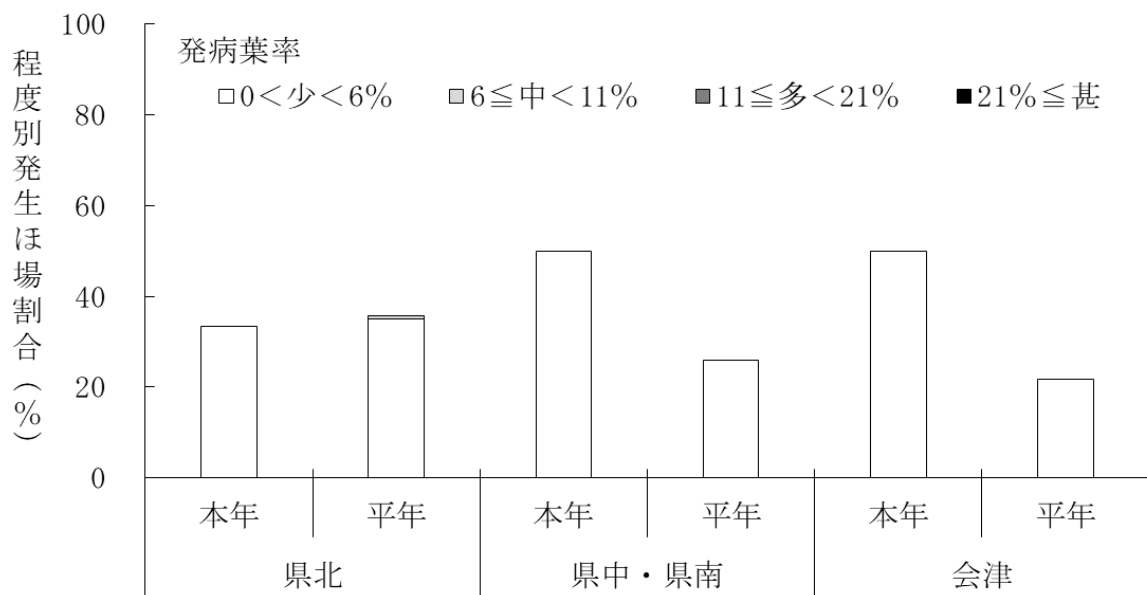


図1 リンゴ斑点落葉病の発生状況

(2) リンゴ褐斑病

新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高い状況でした（図2）。

7月は二次感染期です。薬剤散布は、降雨前の実施を基本とし、散布間隔があきすぎないように実施しましょう。令和5年6月29日付け令和5年度病害虫防除情報（リンゴ褐斑病）参照。

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>)

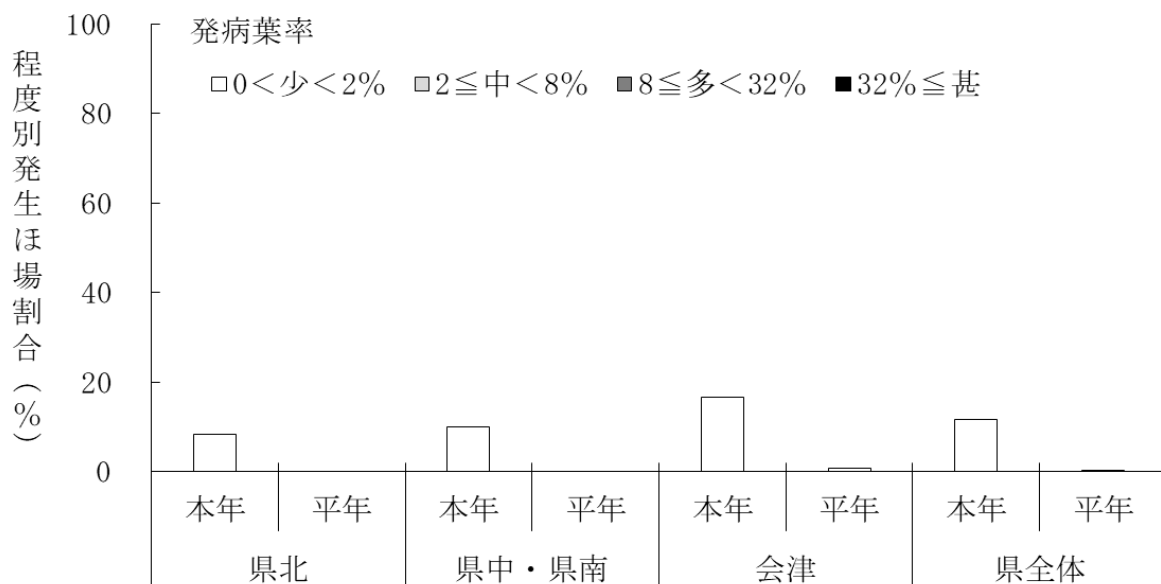


図2 リンゴ褐斑病の発生状況

(3) リンゴ黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、会津では平年並でした(図3)。中通りでは、発生は確認されませんでした。また、果実での発生は確認されませんでした。

発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。薬剤散布は散布ムラがないように丁寧に実施しましょう。

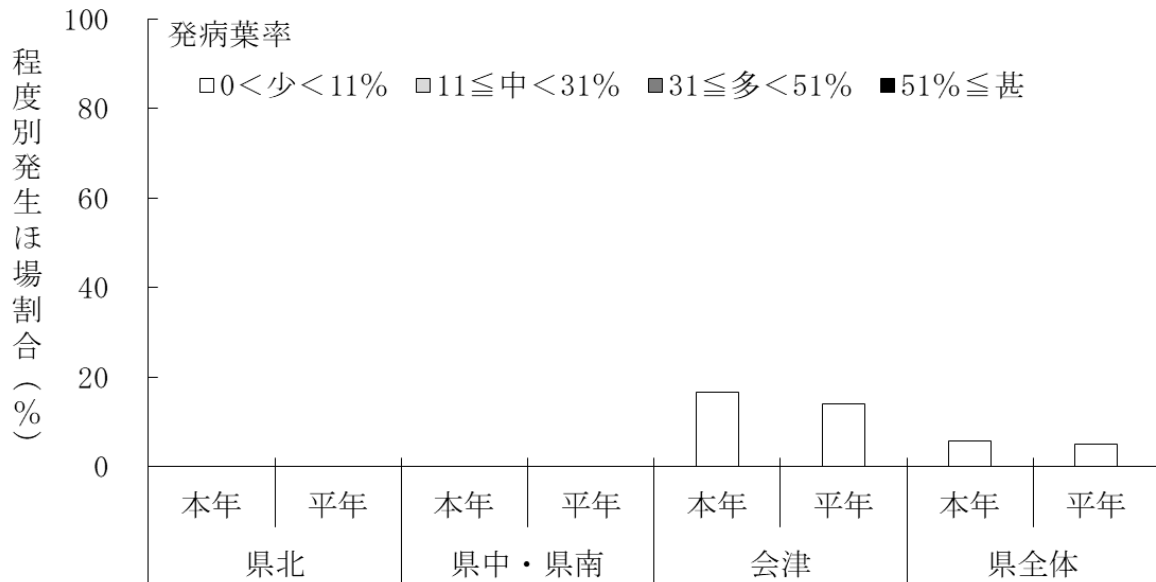


図3 リンゴ黒星病の発生状況 (新梢葉)

(4) キンモンホソガ

新梢葉での被害は、確認されませんでした。

(5) アブラムシ類

新梢寄生ほ場割合は、平年並でした(図4)。

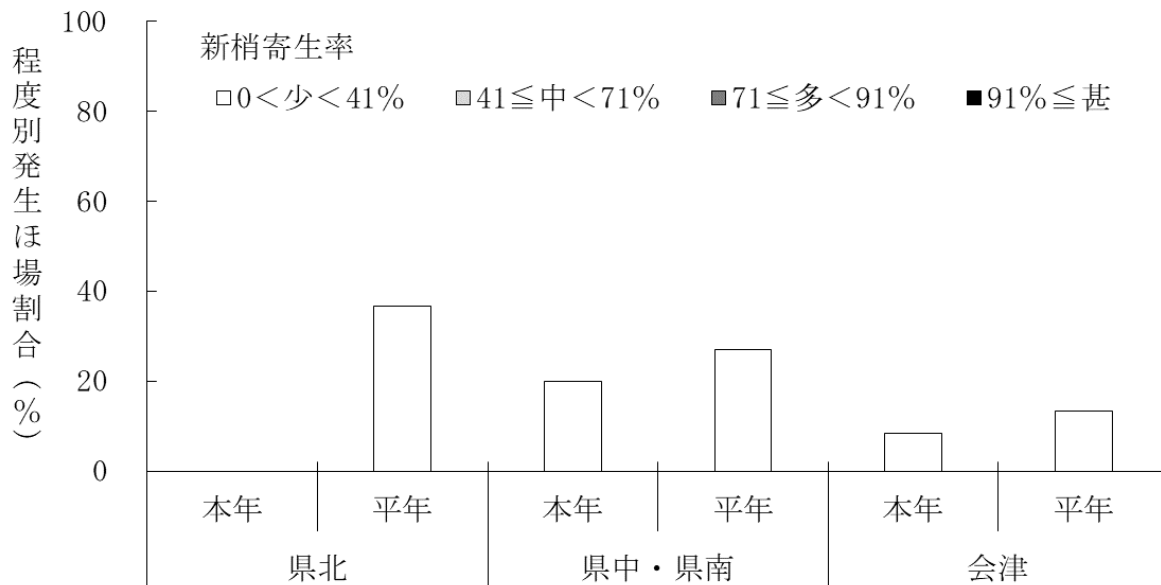


図4 アブラムシ類の新梢葉寄生状況

(6) ハダニ類

新梢寄生は、県北では平年並の状況でしたが、その他の地域では少なく、県全体ではやや低い状況でした（図5）。

要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

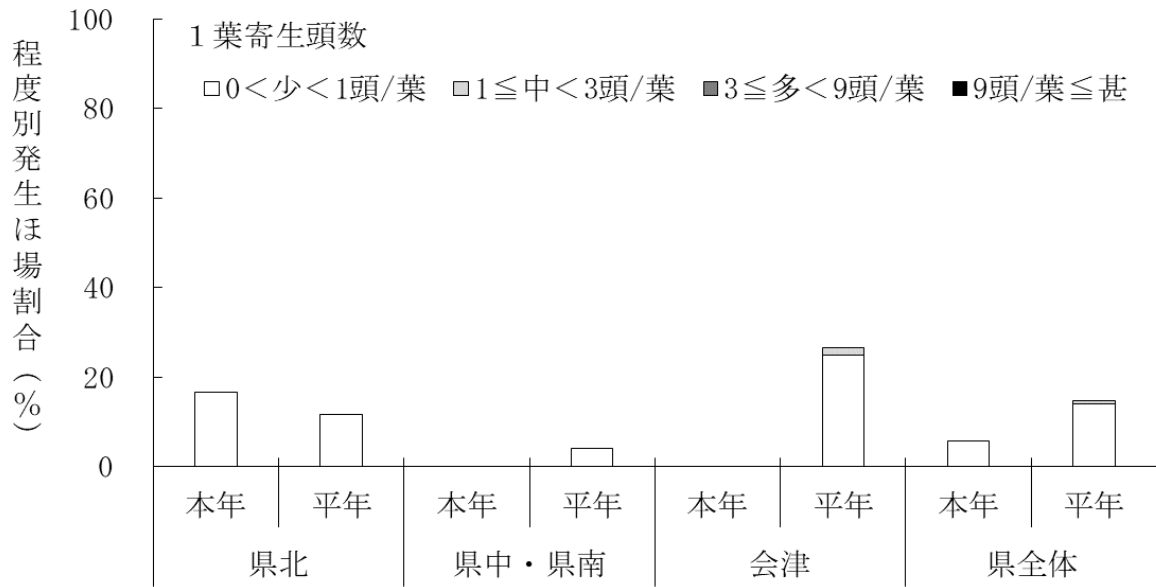


図5 ハダニ類の新梢葉寄生状況